

横浜合唱協会 第66回定期演奏会



2016年7月30日(土)
横浜みなとみらいホール 大ホール
主催：横浜合唱協会

横浜合唱協会 第66回定期演奏会

バッハ・ヘンデル・スカルラッチェ

～1685年生まれの作曲家～

J.S.バッハ(1685～1750)

"Der Geist hilft unser Schwachheit auf" BWV226

聖霊は我らの弱きを助けたもう

"Messe in g-moll" BWV235

ミサ曲 ト短調

— 休 憩 —

D.スカルラッチェ(1685～1757)

"Magnificat"

マニフィカト

G.F.ヘンデル(1685～1759)

"Dixit Dominus"

主は言われた

指 揮：山 神 健 志
ソ プ ラ ノ：本 宮 廉 子
ア ル ト：北 條 加 奈
テ ノ ー ル：谷 口 洋 介
バ ス：成 瀬 当 正
管 弦 楽：東京バッハ・カンタータ・アンサンブル
合 唱：横浜合唱協会

ごあいさつ

本日は横浜合唱協会第65回定期演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。

今回は1685年に生まれた3人の偉大な作曲家をとりあげました。同じ時代に活躍したとはいえ、その作風は全く異なり、まさに百花繚乱。それぞれ活躍した国は異なりますが、そこで最高峰に到達した音楽表現を体験して頂けたら、主催者としてこれに勝る喜びはございません。

さて、永年にわたり指導いただいていたまいりました八尋和美先生が昨年秋に退任され、本日は、新たにお迎えした山神健志先生の指揮で歌う最初の定期演奏会でございます。団員一同新しい気持ちで張り切っております。今までの良きものを残し、そのうえに新しい味を付け加えることができるでしょうか。

昨年は、7年ぶりのドイツ演奏旅行を実現し、現地の合唱団アミチ・ムジケとの合同演奏を体験致しました。そして来年秋には彼らが来日して、横浜で合同演奏会を行います。一方、ヴォイストレーニングやレクチャーコンサートなどの充実にも力を注いでおります。

このように、当団は音楽の情熱に燃える人にとってますます魅力的な活動を展開してまいります。興味をお持ちの皆さまには是非とも練習に参加していただけます事を切に願っております。

今後とも引き続き皆様方のご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

2016年7月30日

横浜合唱協会 代表 清水 光洋

プロフィール

山神 健志(やまがみ たけし/指揮)

1973年生まれ。自由学園最高学部卒業、東京芸術大学卒業後イタリアに留学。帰国後、合唱指揮者として活動を開始。現在は、児童合唱から大規模な混声合唱まで多くの合唱団の常任指揮者を務めるほか、各地で市民参加による公募合唱団を指導。最近では2011年ベートーヴェン『第九』(指揮：ヤクブ・フルチャ)、ドヴォルザーク『スターバト・マーテル』(指揮：広上淳一)、2013年ヴェルディ『レクイエム』(指揮：三ツ橋敬子)、2014年ブラームス『ドイツ・レクイエム』(指揮：広上淳一)等の合唱指揮を担当。その的確な指導は共演した内外の指揮者や合唱団から信頼を得ている。

また、オーケストラと歌う素晴らしさを子どもから大人まで広く体験してもらおうと積極的に活動し、これまでにジョン・ラッター『子どもたちのミサ』(オーケストラ版日本初演)、上田真樹「あらしのよるに」(オーケストラ版委嘱初演)をはじめ、多くのコンサートを企画、指揮している。オーケストラ指揮の分野でも特に宗教音楽での評価が高く、今後の活躍が期待されている指揮者である。

本宮 廉子(もとみや きよこ/ソプラノ)

千葉県出身。日本大学芸術学部音楽学科卒業。同大学院修了。フランスにて夏期国際アカデミーを受講。ヘンデル「メサイア」、バッハ「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」、ハイドン「ネルソン・ミサ」、モーツァルト「ハ短調ミサ」、「戴冠ミサ」、ベートーヴェン「オリブ山上のキリスト」、「第九」、ブラームス「ドイツレクイエム」、フォーレ「レクイエム」、プーランク「グロリア」等にソリストとして出演するほか、古楽、フランス歌曲、日本歌曲を中心とした演奏活動を行う。

現代作曲家の作品演奏・録音にも多数参加。「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」(上田益作曲)をプラハ、およびウィーン聖シュテファン大聖堂、日本各地にて演奏。今秋イタリアでの公演決定。

第16回日仏声楽コンクール入選。

丹羽勝海、酒井伊吹子の各氏に師事するほか、L.ヌバー、D.ボールドウィン、E.アメリック諸氏のレッスンを受講し研鑽を積む。モーツァルト・アカデミー・トウキョウ(MAT)、ヘンデル・フェスティバル・ジャパン(HFJ)室内合唱団、アンサンブル・マルモアメンバー。日本ヘンデル協会、日本セヴラック協会会員。

プロフィール

北條 加奈(ほうじょう かな/アルト)

東京芸術大学声楽科卒、同大学院修士課程を修了。声楽を伊原直子、指揮法を伊藤栄一、合唱音楽を今井邦男に師事。ジャンルを問わない幅広い声楽レパートリーを持つ。演奏会ソリストとして、ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデル、モーツァルト、ベートーヴェン等の宗教楽曲をはじめ、ストラヴィンスキー「結婚」、ブラームス「アルトラソディ」、「ドイツレクイエム」、フォーレ「レクイエム」等、声種を越えたレパートリーで幅広く活躍中。これまでに日本各地の合唱団体やオーケストラと共演し、その柔軟な声から生まれる豊かな表現はいずれも高い評価を得ている。また、合唱に関する造詣が深く、第23回カントニグロス国際音楽祭女声合唱部門において第一位を獲得する他、国内外での豊かな合唱経験で培われた合唱・発声指導は非常に高く評価されている。ヴォイストレーナー・合唱指揮者として、児童合唱団からシニア層まで、年代を問わず数多くの合唱団体の指導にあつている。NHK東京児童合唱団ヴォイストレーナー・講師。

谷口 洋介(たにぐち ようすけ/テノール)

神奈川県横浜市出身。1998年、国立音楽大学声楽科を卒業。声楽を宮崎義昭、中村健、大石正治、ヒサコ・タナカ、ジョン・エルウイス、ゲルト・テュルクの諸氏に師事。1998年以來、鈴木雅明主宰のバッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)のメンバーとして国内外の数多くの演奏会やCD録音に参加し、現在もソリストおよびコーラス主要メンバーとして活躍中。1999年、BCJ演奏によるクラウドディオ・モンテヴェルディ作曲「聖母マリアの夕べの祈り」でソリストデビュー。2002年、鈴木美登里を主宰として声楽アンサンブルグループ「ラ・フォンテヴェルデ(LFV)」を結成し、16世紀～17世紀のイタリアで流行したマドリガーレの演奏と普及に努めている。LFVは2013年よりクラウドディオ・モンテヴェルディ作曲のマドリガーレ全曲演奏・録音プロジェクトをスタートさせ話題を集めている。2014年3月、BCJによるニュージーランド・フランス・スペインツアーでは、J.S. バッハ作曲「ヨハネ受難曲」のソリストをつとめ、各地で好評を得た。

成瀬 当正(なるせ あつまさ/バリトン)

東京音楽大学付属高等学校を経て同大学声楽科卒業。同研究科修了。在学時より古典派からロマン派ドイツ歌曲、バロックから近代にいたる宗教曲、声楽曲を専門に研さんを積む。1986年、東京文化会館新人オーディション合格。同デビュー演奏会出演。1991年、日本シューベルト協会国際歌曲コンクール総合第一位、大賞受賞。1991年、日本シューベルト協会国際歌曲コンクール総合第一位、大賞受賞。毎年行われるドイツ歌曲リサイタルでは「詩情豊かな表現」「奥深い芸術性」を高く評価される。宗教曲等独唱者としてはバッハを主に首都圏、関西を中心に全国で演奏活動を行っている。日本歌曲に於いては毎年レクチャーコンサートを開催し美しい日本語と「格調ある歌唱」を評価されている。現在、東京音楽大学講師。同付属高等学校講師。

東京バッハ・カンタータ・アンサンブル

東京バッハ・カンタータ・アンサンブルは、東京芸術大学の学内サークルとして、小林道夫氏のもとで活発な演奏活動を続けてきた「芸大バッハ・カンタータ・クラブ」のOB、OGを中心に、卒業後もカンタータの演奏を続けようとする有志が集まり、1977年に発足しました。メンバーは各自がソリスト、室内楽、オーケストラなど、各方面で活動しているため、多少流動的ですが、活動開始から既に30数年を経ており、バッハやヘンデル等のバロックからハイドン、モーツァルトの古典、最近ではメンデルスゾーン、ブラームス、ドヴォルザーク等のロマン派、更にはフォーレ、プーランク、デュリュフレ、ペルトといった近代、現代のものまでレパートリーを広げています。その演奏はいずれもが様式感に則った生き生きとしたもので、共演した各合唱団、指揮者から、高い評価を得ています。過去においては、ヴェルナー・ヤーコプ、H.ヴィンシャーマン、H.J. ロッチュ、ペーター・ノイマン、クリストフ・ピラー、小林道夫、八尋和美、黒岩英臣、井上道義など内外の指揮者をはじめ、横浜合唱協会、新潟メサイア合唱協会、オラトリオ東京、文京シティ・コア、合唱団「樹林」、盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団など、全国各地の多くの合唱団と共演しています。横浜合唱協会とは10年以上に亘って共演を続けており、今回は15回目になります。

公式ホームページ <http://www.tokio-bach-kantaten-ensemble.com/>

本日の出演者
ヴァイオリンⅠ：川原 千真(コンサートマスター)、小田 瑠奈、大谷 美佐子
ヴァイオリンⅡ：三輪 真樹、高木 聡、片桐 恵里
ヴィオラⅠ：李 善銘、宮崎 桃子 / ヴィオラⅡ：深沢 美奈、丸山 韶
チェロ：伊藤 恵似子 / コントラバス：諸岡 典経
フルート：尾崎 温子、平地 友佳 / オルガン：圓谷 俊貴

曲目解説

◆バッハ、ヘンデル、スカルラッチェの生涯史上の“点と線”

今回取り上げた3人の作曲家は同じ1685年に生まれ、それぞれ多くの名曲を残し1750年代に亡くなりました。1600年頃始まったバロック音楽は、この三人の巨匠によって多様に展開され締めくくられました。まずは巨匠同士の関係、とりわけお互いの“出会い”に関する“点と線”を追いかけてみましょう。

バッハは音楽の先進国であったイタリア、フランスの音楽に習熟し自らの音楽に自在に取り込んでいたにも拘らず、生涯ドイツの地を離れたことが有りませんでした。またイタリア生まれのスカルラッチェは後半生ポルトガル、スペインで活躍しますが、ドイツの地に足を踏み入れていません。となると鍵を握るのはヘンデルの動線です。そこでドイツ、イタリア、イギリスを股にかけて国際的に活躍したヘンデルの足取りを追ってみましょう。

1702年17歳でハレ大学に入学しハレ大聖堂のオルガニストも務めていたヘンデルは、翌年ハンブルクに移りオペラハウスのバイオリニストの職を得ます。ドイツ最初のオペラハウスを有したこの地で“劇的手法”を身に着けた野心家は、1706年突如イタリアへ乗り込み、フィレンツェ、ヴェネツィア、ローマ、ナポリで作曲、演奏の修行を展開します。

ヘンデル、スカルラッチェの鍵盤対決

1709年ローマにおいてヘンデルの“パトロン”役の枢機卿の館が格好の“出会い”の舞台となりました。卓越したチェンバロ奏者であったイタリアのスカルラッチェと、ドイツからやってきた注目のオルガン奏者ヘンデルの“鍵盤対決”が行われました。結果は様々に伝えられていますが勝敗は不明です。しかし二人はお互いの能力に強い衝撃を受け、生涯に亘る友情を築いたとのエピソードが残されています。

イタリアで華々しい成果を上げたヘンデルは、1710年にイタリアを離れハノーファー宮廷に楽長として迎え入れられます。1714年そのハノーファー選帝侯がイギリス国王ジョージ一世となる好運にも恵まれてロンドンでの活躍が中心になっていきます。

ヘンデルに会いに行ったバッハ

1719年ヘンデルがドイツに出張した折に故郷ハレに立ち寄ります。それを知ってケーテン宮廷楽長であったバッハは、“国際的に活躍する有名人”ヘンデルに会おうとハレに向かいます。しかし残念ながらヘンデルはハレを発ってドレスデンに向かってしまい、貴重な“出会い”の機会を逃しました。

その後も生涯“出会う”ことが叶いませんでした。

三人の巨匠の生存中はヘンデルが最も有名人だったのです。

ところでバッハとスカルラッチェの共通点は、両者とも“音楽家を輩出した一族”に生まれ、音楽家を天職としたことです。バッハはその一族の頂点に、スカルラッチェは父と共に“父子”で頂点を築いています。一方孤高の天才ヘンデルは父が医師で音楽家になることに強く反対されたものの初心を貫きました。



ヘンデル 対 スカルラッチェ



ヘンデル 対 バッハ

◆J.S.バッハ(1685～1750):聖霊は我らの弱きを助けたもう BWV226

ライプツツヒ大学教授でトマス学校長エルネスティの葬儀曲で、1729年大学教会(右写真)で演奏されました。



- ・第1部 (舞曲パスピエと二重合唱対話) 変ロ長調(B-dur)
葬儀の曲ですが暗さはありません。長寿で人生を全うした学校長を天国に迎えるかのように、長調で舞曲パスピエのリズムに乗って舞うような16分音符のコラトゥーラによる聖霊の舞で始まります。後半は朗唱風になり、“beten祈る”の歌詞のところはリートの祈りが捧げられます。
- ・第2部 5声フーガ ト短調(g-moll)
一転追悼の心情が強く表れ、主題“sondern der Geistしかし聖霊は”で始まる固いメロディを5声のパートが順に受け渡すフーガ、一方主題以外のパートは、“Seufzen呻き”の溜息の音型で故人の死を嘆きます。その嘆きの極め付けはオブリガートを担う第一ソプラノで、へ短調(f-moll)に転調して、長い嘆きのパッセージを演じて第2部を締めくくります。まさにヨハネ受難曲で福音史家が歌う“ペテロの嘆き”を思い起こさせるクライマックスです。
- ・第3部 4声フーガ 変ロ長調(B-dur)
第1主題«Der aber die Herzen forschet人のこころを究めた者»は、しっかりしたルネッサンス風フーガにてバスとテノールから開始し、ソプラノとアルトがカノンのように受け継いで進行します。
第2主題«denn er vertritt die Heiligen 聖霊は聖人らのために執り成す»では、最後の“Heiligen聖人ら”のところでメリスマの多いバロック要素が加わります。これら二つの主題の結合部では第2主題の«Heiligen聖人ら»が多様に変形されて見事な2重フーガを生み出します。それはまるで聖霊の自在で多様な働きを象徴するかのようです。
- ・第4部 4声コーラル 変ロ長調(B-dur)
葬儀の曲の最後はルターの力強い詞で、聖霊の慰めと助けで艱難を乗り越え、主のもとへ進めるように“ハレルヤ”と結ばれます。

◆J.S.バッハ(1685～1750):ミサ曲ト短調 BWV235

バッハのミサ曲と言えば大曲“ロ短調ミサ”が挙げられますが、その他に“キリエとグロリア”のみに曲付けされた“4つの小ミサ曲集”と名付けても良いような一連の曲を残しています。この“4つの小ミサ曲集”はAdur(イ長調)⇒Gdur(ト長調)⇒gmoll(ト短調)⇒Fdur(へ長調)と音階に沿って配列されていて、今回はその中からト短調のミサ曲を取り上げました。
バッハは“平均律クラヴィーア曲集”で、前人未到であった全24調を実際に音楽的に作曲することによって実証し、近代調性音楽の礎を築きました。この“4つの小ミサ曲集”は全体では24曲となりますが、調性面では、合唱が担う4つの主調に加え、独唱が担う近親調を合わせると、“インヴェンションとシンフォニア”と同じ主要15調をカバーしています。まさに“声楽版インヴェンション”と見做せるようでもあり、現代の合唱・独唱者への素晴らしい贈り物となっています。
曲は主として1720年代の中頃に作曲した“ドイツ語カンタータ”から選んで、1730年代末に“ラテン語ミサ曲”に再編集、再配置して作られています。全体は6つの曲で構成されています。半分の3曲を占める合唱はすべてト短調が与えられ、独唱曲はその近親調となっています。

- ・第1曲 “Kyrie キリエ” 合唱 ト短調(g-moll) 4/4
コンチェルト様式の器楽演奏で始まり、“ヨハネ受難曲”を思わせるように合唱が“キリエ”と短調和音を付点リズムで呼びかけます。

- ・第2曲 “Gloria グロリア” 合唱 ト短調(g-moll) 3/4
第1曲の“キリエ”モチーフに呼応した付点“グロリア”の短調和音が響く中、連続した16分音符メロディによるカノンが天の栄光を目指すかのように駆け抜けます。
- ・第3曲 “Gratias 感謝” バス独唱 ト短調(d-moll) 2/2
バスがユニゾンのヴァイオリンと掛け合いながら神への信頼・感謝を歌います。
- ・第4曲 “Domine Fili 主なる御子” アルト独唱 変ロ長調(B-dur) 3/8
長調に転じて舞曲風のリズムに乗って、アルトがソロ・オーボエと掛け合い神を賛美します。
- ・第5曲 “Qui tollis 罪を除いて下さる方” テノール独唱 変ホ長調(Es-dur) 4/4-3/8
前半はアダージョで憐れみを、後半は3拍子のアレグロで神を称賛します。
- ・第6曲 “Cum Sancto Spiritu 聖霊とともに” 合唱 ハ短調(c-moll)-ト短調(g-moll) 4/4
前曲と平行調のハ短調を経由して、ミサ曲の主調のト短調に戻り壮大なフーガで締めくくります。

◆D.スカルラッティ(1685～1757) :マニフィカト “Magnificat”

1685年イタリアのナポリに生まれ、1701年にナポリ王室礼拝堂オルガニスト、1715年にはローマのサン・ピエトロ大聖堂(右写真)の楽長に就任します。控えめな性格だったようで、偉大な父・アレッサンドロの存命中は伝統的・保守的な活動でしたが、父の死後1719年にポルトガルのジョアン5世、1729年にはスペイン王家に仕え、鍵盤作品で斬新な輝かしい多くの名曲を残し1757年マドリッドで亡くなっています。



“マニフィカト”の作曲年は確定されていませんが、ヘンデルとの“鍵盤対決”の後、ローマの楽長時代の1715年頃と推定されています。ローマ・カトリックのお膝下だったからでしょうか、伝統的な“教会旋法”に基づく作風で、ほぼ同じ頃に作られたヘンデルの“主は言われ”たの劇的な表現とは対照的です。“マニフィカト”の定例文に沿って、歌詞の節ごとに曲付けされていますが、真ん中で区切って2部構成となっています。

- ・前半: “Magnificatマニフィカト”から“et exaltavit humiles高く上げる”まで
伝統的なパレストリーナ様式に基づいて教会旋法で書かれていますが、まるで転調するかのよう、様々な教会旋法を移り変わって行って、歌詞内容を表現しているところに新しさが見られます。
まず、古風な“マニフィカト”主題が、ドリア旋法でソプラノから、アルト、テノール、バスと続き敬虔に開始されます。その後、歌詞に合わせて“Quia respexit主は目を留めて”では跳躍音型を含むリディア旋法で明るく、“ecce enim ex hoc beatam祝されし者を見よ”はエオリア旋法に移って優しくしつとりと歌わせます。途中ドリア旋法を経て、最後は非常に明るい開放的なミクソリディア旋法で“et exaltavit humiles.高く上げる”の語句を象徴させて、曲の最高音となるgをソプラノが長く引き伸ばして“クライマックス”を形成して前半を結びます。
- ・後半: “Esurientes implevit bonis: 良い物で満たし”から“Gloria Patri,--- アーメン”まで
後半はドリア旋法がずっと維持されていますが、“recordatus misericordiae憐れみを忘れない”と“アーメン”に曲付けされたイタリア歌曲に通じるカノン風の長いメロディが何度も繰り返して訴えかけてきて、聴く人の心に染み入ります。

◆G.F.ヘンデル(1685~1759) “Dixit Dominus” 主は言われた

1706年21歳でイタリアに来たヘンデルが、その翌年にローマで完成させたと推定されています。その他にもイタリア時代に幾つかのラテン語宗教曲を残しています。曲は詩篇の中で取り上げられることが多かった「王の即位式の歌」である第110篇の1節から7節までを、ほぼ節ごとに区切って8曲とし、最後をGloria Patriの小栄唱で結んでいます。「何と言ってもバロック音楽の中心はオペラであった！」ことを納得させるに違いない時代の申し子のような「劇的宗教曲」です。

- 第1曲 “Dixit Dominus主は言われた” 独唱と合唱 ト短調 4/4
合唱が“主は言われた”のモチーフで民の声を叫ぶ中、独唱は“私の右に座れ”と神の声を告げ、さらに復活祭聖歌の定旋律が加わりドラマが開始されます。



- 第2曲 “Virgam virtutis力ある杖” アルト独唱 変ロ長調 4/4
力ある王権の杖を授与された王よ、“敵を支配せよ”と16分音符のメリスマで歌います。

- 第3曲 “Tecum principium始まりはあなたと共に” ソプラノ独唱 ハ短調 3/4
三連符が印象的な美しい曲で、歌詞の“聖人の輝き”が強調され、三度に亘って歌われます。

- 第4曲 “Juravit Dominus主は誓われた” 合唱 ト短調 4/4-3/4
荘重な“主は誓われた”の開始から、アレグロの“Et non poenitebit後悔しない”に急変化します。

- 第5曲 “Tu es sacerdosあなたは祭司” 合唱 変ロ長調 4/4
創世記の祭司“メルクセデック”が、オクターブ下降音型の早口言葉で何度も印象的に歌われます。

- 第6曲 “Dominus a dextris tuis主はあなた達の右に” 独唱と合唱 二短調 3/4
最初に独唱が主の到来を美しく告げ、続いて合唱がそれに呼応します。

- 第7曲 “Judicabit in nationibus主は諸国を裁き” 合唱 ヘ長調 4/4
戦場場面(右図)を長短の異なった音符、即ち
①“Judicabit裁き”は、付点4分音符、
②“in nationibus諸国民”は、8分音符、
③“implebit(屍で)満たす”は、16分音符、
3つのモチーフの組み合わせで劇的に描写します。



- 第8曲 “De torrente in via途上の川から” 独唱と合唱 ハ短調 4/4
男声合唱を背景に、ソプラノ二重唱が装飾を伴って抒情的に歌い、王の即位式が終わります。

- 第9曲 “Gloria Patri父と子と聖霊に栄えあれ” 合唱 ト短調 4/4
三位一体の小栄唱は、
①“Gloria”は、16分音符、
②“et Spiritus Sancto聖霊”は、8分音符、
③“Sicut erat in principio初めにあったように”は、第1曲の復活祭の聖歌が戻ってきて、これら3つの主題によるフーガとなり、最後は“Et in saecula saeculorum amen世々限りなく、アーメン”の壮大なフーガで締めくくられます。

藤井 良昭(会員)

歌詞対訳

Johann Sebastian Bach / ヨハン・セバスティアン・バッハ

Der Geist hilft unser Schwachheit auf BWV226 聖霊は我らの弱きを助けたもう BWV226

Der Geist hilft unser Schwachheit auf,
denn wir wissen nicht, was wir beten sollen,
wie sich gebühret;
sondern der Geist selbst vertritt uns aufs
beste mit unaussprechlichem Seufzen.

聖霊は弱い私たちを助けてくださいます、
私たちは何を祈るべきかわかりませんが、
御心に叶うために、
聖霊自ら私たちの祈りを執り成してくださいませ
言葉に表せない呻きをもって。
(ローマ人への手紙8,26)

Der aber die Herzen forschet, der weiß,
was des Geistes Sinn sei;
denn er vertritt die Heiligen nach dem,
das Gott gefället.

また人の心を究めたものは知っています、
聖霊の思いが何であるかを。
聖霊は聖なるものに執り成してくださいませ、
神の御心に叶うように。
(ローマ人への手紙8,27)

Choral

Du heilige Brunst, süßer Trost,
nun hilf uns, fröhlich und getrost
in deinem Dienst beständig bleiben,
die Trübsal nicht abtreiben.
O Herr, durch dein Kraft uns bereit
und stärk des Fleisches Blödigkeit,
daß wir hie ritterlich ringen,
durch Tod und Leben zu dir dringen.
Halleluja.

あなたは聖なる炎、甘美なる慰め、
いま私たちをお助けください、喜びと安心をもって
いつまでもあなたにお仕えし、
艱難が私たちを押し流さないように。
おお主よ、御力によって私たちを励まし、
肉の弱さを強くしてください、
私たちが勇者らしく戦い
死も生も乗り越えて、進んで往けますように。
ハレルヤ。

(マルティン・ルター作コラール
«Komm, Heiliger Geist, Herre Gott» [1524]第3節)

Messe in g-moll BWV235

Kyrie

Kyrie, eleison.
Christe, eleison.
Kyrie, eleison.

主よ、憐れんでください。
キリストよ、憐れんでください。
主よ、憐れんでください。

Gloria

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te. Benedicimus te.
Adoramus te. Glorificamus te.

天には、神に栄光が。
地には、善意の人に平和がありますように。
あなたを誉め、あなたを祝します。
あなたを崇拜し、あなたを讃美いたします。

Gratias

Gratias agimus tibi propter magnam
gloriam tuam.
Domine Deus, Rex coelestis,
Deus Pater omnipotens.

あなたの大きいなる栄光のゆえに感謝いたします。
神なる主、天の王、
全能の父なる神よ。

Domine Fili

Domine Fili unigenite,
Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei,
Filius Patris.

主なる御ひとり子、
イエス・キリストよ。
神なる主、神の子羊、
御父の御子よ。

Qui tollis

Qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris,
miserere nobis.
Quoniam tu solus Sanctus.
Tu solus Dominus.
Tu solus altissimus,
Jesu Christe.

世の罪を除いてくださる方よ、
私たちを憐れんでください。
世の罪を除いてくださる方よ、
私たちの願いをお聴きください。
御父の右にすわっておられる方よ、
私たちを憐れんでください。
何故ならあなただけが聖なる方。
あなたは唯一の主。
あなたは唯一の至高の方。
イエス・キリスト。

Cum Sancto Spiritu

Cum Sancto Spiritu,
in gloria Dei Patris.
Amen.

聖霊とともに、
御父なる神の栄光のうちに。
アーメン。

Domenico Scarlatti / ドメニコ・スカルラッチィ

Magnificat

Magnificat anima mea Dominum,
Et exultavit spiritus meus
in Deo salutari meo.
Quia respexit
humilitatem ancillae suae:
ecce enim ex hoc beatam me
dicent omnes generationes.
Quia fecit mihi magna
qui potens est:
et sanctum nomen ejus.
Et misericordia ejus a progenie
in progenies timentibus eum.
Fecit potentiam in brachio suo:
dispersit
superbos mente cordis sui.
Deposuit potentes de sede,
et exaltavit humiles.
Esurientes implevit bonis:
et divites dimisit inanes.
Suscepit Israel puerum suum,
recordatus misericordiae suae.
Sicut locutus est ad patres nostros,
Abraham et semini ejus in saecula.
Gloria Patri, et Filio,
et Spiritui Sancto.
Sicut erat in principio,
et nunc et semper,
et in saecula saeculorum.
Amen.

マニフィカート

私の魂は主をあがめます、
私の霊は喜び躍りました
私の救い主である神によって。
顧みて下さったからです
取るに足りないはしためを。
見よ、今から私を幸せな女性と
いつの世の人も、呼ぶでしょう。
私に大いなることをなされたからです
力ある方が。
その御名は神聖。
その御憐れみは世々に及びます、
主を畏れる人々の上に。
自ら御腕で権能をふるい、
散りじりにされました
自分の心の思いに驕れる人々を。
権力ある者をその座から降ろし、
取るに足りない者を高められました。
飢えた者を善いもので満たし、
富める者を空しく去らせました。
その僕イスラエルを受け入れ、
御憐れみを御心に留めてくださいました。
私たちの先祖に仰ったように、
アブラハムとその子孫に永久に。
栄光が御父と御子、
そして聖霊とにありますように。
始めにそうであったように、
いまもいつも、
世々に至るまで。
アーメン。

Georg Friedrich Händel / ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル

Dixit Dominus

Chor

Dixit Dominus Domino meo:
Sede, a dextris meis,
donec ponam inimicos tuos,
scabellum pedum tuorum.

主は言われた

主は私の主君に言われた。
「私の右に座りなさい、
私があなたの敵を、
あなたの足台にするまで。」

Aria(Alto)

Virgam virtutis tuae emittet Dominus ex Sion:
dominare in medio inimicorum tuorum.

主はあなたの力の杖をシオンから差し出した。
「あなたは諸々の敵を支配しなさい。」

Aria(Soprano)

Tecum principium in die virtutis tuae
in splendoribus sanctorum:
ex utero ante luciferum genui te.

あなたの民は、あなたがその軍勢を聖なる山々に
導く日に喜んで己を捧げるだろう。
あなたの若者は暁の胎から出る露のように
あなたのもとに来るだろう。

Chor

Juravit Dominus.
Et non poenitebit eum.

主は誓われた。
そしてそれを後悔することは無い。

Chor

Tu es sacerdos in aeternum secundum ordinem
Melchisedech.

「あなたはメルキゼデクの位に従って、
永遠に祭司である。」

Solo, Chor

Dominus a dextris tuis,
confregit in die irae suae reges.

主はあなたの右に立ち、
怒りの日に諸王を打ち砕かれる。

Chor

Judicabit in nationibus implebit ruinas,
conquassabit capita in terra multorum.

主は諸国を裁き、しかばねで満たし、
広大な地を治める首領たちを打ち破るだろう。

Sopranos, Chor

De torrente in via bibet,
propterea exaltabit.

彼は途上の川から水を飲み、
それによって、その頭を上げるだろう。

Chor

Gloria Patri, et Filio, et Spiritui Sancto,
sicut erat in principio, et nunc, et semper.
Et in saecula saeculorum.
amen.

願わくは父と子と聖霊に栄えあらんことを
始めにありしごとく、
今もいつも世々限りなく。
アーメン。

2015年9月20日、ドイツ・ライプツィヒ・聖トーマス教会で行われたamici musicae Leipzigと
横浜合唱協会とのジョイントコンサートとその練習での一部をYouTubeにupしました。

「YCS アミチ」で検索。

または下記のQRコードよりご覧ください。

YCS アミチ



横浜合唱協会

横浜合唱協会はJ.S.バッハ合唱作品の本格的な演奏活動を目指して、1970年に発足したアマチュア合唱団です。創立以来、J.S.バッハを中心に据えつつ、バロック時代の作品からメンデルスゾーン、ブラームス等のロマン派、さらにマルタン、ペルト等の近・現代作品まで幅広く取り上げています。指揮者は新たに山神健志氏をお迎えし、ピアノ伴奏者に谷口明子氏、ヴォイストレーナーに木島千夏、小川明子、小林彰英、佐野正一各氏を迎え、音楽・発声の両面からご指導をいただいております。また、これまでの定期演奏会では、客演指揮者として小林道夫、若杉弘、黒岩英臣、トーマスカントールG.C.ピラー各氏等をお迎えしました。バッハ没後250年の2000年には創立30周年記念演奏会として、G.C.ピラー氏をはじめライブツィヒ関係者のご協力を得て「BACH FEST 2000 TOKIO」を開催、2004年にはG.C.ピラー指揮による「マタイ受難曲BWV244b(初期稿)」を演奏しました。1997年に始まったドイツ演奏旅行は既に4回を数え、バッハ縁りのライブツィヒ聖トーマス教会における礼拝式での演奏をはじめ、タールビュルゲル(夏の音楽祭)、アンナベルク=プーフホルツ、シュトゥットガルト、クヴェトリンブルクなどドイツ各地での公演を行い、大きな足跡を残しました。2015年9月の4回目となるドイツ演奏旅行では、ライブツィヒを拠点に活動するアミチ・ムジケ(amici musicae)と演奏交流を深め、ジョイント・コンサートを実現しました。2017年10月には、アミチ・ムジケを横浜に迎えての演奏会を予定しています。

正 会 員

[ソプラノ]

平鹿 諭子	飯島 純子	新谷 暁	須賀 由美	藤井 節子	魚本 充子	市川 浩子
山田 都	志村 知子	高田 文子	古宮真紀子	青柳 敦子	広庭 恵美	河野 敦子
渡部 園美	中村さえ子	土田 紀子	北村千恵子	北原 規子	小野 早苗	田口千佳子
柏屋麻里子	佐々木 悠					

[アルト]

堂崎 律子	新井千鶴子	中野 理子	馬岡 洋子	西田 和子	岩附美知子	山本久美子
藤井美智子	堀内 陽子	中山 典子	水越 淳子	鈴木理絵子	那須比奈子	保田 康子
山崎 裕子	松村千佳子	堂崎 直美	A. MacBain	栃木 真紀	志水 弘美	

[テノール]

藤井 良昭	堂崎 浩	馬岡 利吏	古根 正治	清水 光洋	岡田 亮介	長谷 雅信
柏屋 弘	岩間 昌史					

[バス]

新井 隆士	大石 康夫	飯島 龍哉	天ヶ瀬圭三	山田 直樹	松田圭一郎	若狭 保弘
梅原 俊之	平鹿 一久	安積 和彦	小山 正嘉			

維 持 会 員

鹿島 和子	児玉 弓子	伊藤 邦子	気賀沢忠文	新居 康彦	竹村 重雄	万年 武
清水 正子	梅津 実可	中山 元子	武田 サヨ	柴田 秀男	山岡 千秋	佐久間貴美
安広 百代	中西 牧子	入澤 三徳	藤井可奈子	松下 孝	佐々木聰子	吉崎 桂江
友田 晃利	八尋 直美	鈴木 園子	林 雅子	柏 聡子	久保 祐子	村木誠一郎
西連寺利絵	入澤 洋子	鈴木 康司	山下 誉子	小野沢 誠	魚本 一司	平井 聡子
平井 透	石川 鮎子	笹井 平	柴田 英治	吉川由里子	国分エリ子	小見山雄次
雀部 征宜	鳥山 純一	津守 滋	土井美智子	森岡 剛	白石 洋子	日沖 憲司
本多 志織	加藤 拓朗	松田 久美	山口 綾規	岡崎 希枝	恒吉 理美	森岡 美紀
山田多佳子	長谷川由里子	木村 美保	市川 純也	西脇 弥彦	太田 明子	川越 信彰
新井 光恵	小田 稔	柏木梨重子	飯島 幸子	前田 佳子	大塩 亜季	古根香菜子
和久井一男	松本恵太郎	露木 正樹	小川 雅子	二俣 美加	荒井 直子	松尾 裕子
和田 京子	長尾 里美	土井 賢一	今城 明美	大杉 純子	田島 京子	谷口幸一郎